

令和5年度立川市長記者会見記録

日時・場所	令和6年3月8日(金)午後2時 ~ 2時 30 分	201 会議室
出席者	市側 酒井市長、池田図書館長	
	クラブ側 読売新聞・東京新聞・共同通信・時事通信・TokyoMX・ J:COM・えくてびあん 合計7社	
司会進行	広報課長 五箇野	

【酒井市長】

皆様こんにちは。本日は急なご案内にも関わらず、報道機関各社の皆様方にはお越しいただきまして、ありがとうございます。

本日は被災地支援ということで、立川市の図書館において運営している電子図書館を、輪島市の子どもたちに読書の楽しみをプレゼントする取り組みを皆様方にお伝えし、広く全国に発信する中で、同じような取り組みをしていただける、そういった自治体が増えればいいなという思いも込めて、ご紹介させていただきたいと存じます。

このパワーポイントの方でも示させていただいておりますが、本日3月8日付で輪島市長と私の間で電子図書館の輪島市の子どもたちが見られるようにするための覚書を締結いたしました。この覚書に基づき、立川市が購入している事業者にご了解いただき、今後3月12日からになりますけれども、能登の子どもたちに立川市の電子図書館の読み放題パックをご覧になっていただく手筈が整いましたので、本日は急きょこのような会見を持たせていただいた次第でございます。

初めにこれは皆様方のご案内の通りでございますけれども、今年1月1日元旦に能登半島で地震が発災いたしました。現地の職員、被災地の職員はまだ復興業務にあたっており、輪島市においても、図書館業務は中止せざるを得ない状況にあると聞いております。

時間や労力を要する紙の図書の寄贈というのは、当然受け入れが困難であるということから、簡便な手続きで済む電子図書であるならばサービスの提供が可能であるということから、本日出席しております図書館長の池田がいろいろと現地の輪島市と調整して実現にこぎつけたものでございます。

タイトルにございますように、能登半島地震被災者支援事業として、石川県輪島市の

小・中学生等にたちかわ電子図書館、電子書籍閲覧サービスを提供しますということで、事業を行わせていただきたいと考えております。支援の理由でございますけれども、本市が他の自治体と比較して、この電子図書館における児童書が充実しているということが挙げられます。輪島市の小・中学生への読書活動の支援の要請に応えられる力があるということです。

また、石川県下では、7つの自治体が立川市と同じ電子図書館システムを採用いたしておりますけれども、中でも輪島市の被害が最も甚大であり、緊急を要するというところでございます。そして、両市とも小・中学生に電子図書館専用の利用者 ID を交付して学校連携にも取り組んでおり、システム運用面で支障がない、スムーズに活用していただけるところから、このような支援を考えさせていただきました。

対象者は、石川県輪島市立の小・中学生および教員等、約 1,240 名の方々を対象といたしております。報道等でもお知らせしていただいている通り、輪島市のお子さんの中には、他の自治体へ避難しているお子さんもいらっしゃいますけれども、通信環境さえ整っていれば、他の自治体への避難者の方もアクセスしていただけますので、避難者の方々も含むこととしていきたいと考えております。

また、提供期間につきましては、令和 6 年 3 月 12 日、来週の火曜日からスタートいたします。期間につきましては、運営会社がいろいろ許諾を必要とするために、当面 6 か月ということで、8 月 31 日を期限とさせていただきます。この点につきましては、またその時期になった折に、延長が必要であれば再度協議した上で、延長の可能性もあるということで、お含みおきいただきたいと思います。

先ほども、お話した通り対象のコンテンツでございますけれども、たちかわ電子図書館のうちの電子書籍児童書読み放題パックというものがございます。これを立川市においては現在 11 パック 585 点の書籍を読み放題で見られるわけですが、今回被災地支援ということもございますので、今開会中の定例議会に補正予算で追加の児童書読み放題パックを 5 パック、197 点、約 120 万円ぐらいの予算になろうかと思っておりますけど、補正予算として計上を予定しております。議会でお認めいただいた後に追加購入し、この児童書読み放題パックをさらに拡充した上で、立川市の子どものみならず、輪島市の小・中学生並びに先生方にもそのコンテンツを提供していきたいと考えている次第でございます。

さらに、具体的にどのようにするかということですが、皆様のお手元にお配りさせていただいていると存じますが、3 月 8 日に先ほどお話した通り、立川市と輪島市との間

で覚書を締結しました。3月12日に輪島市の小・中学生向けに利用をスタートいたします。ご覧のように立川市の電子図書館をぜひウェブで確認していただきたいと思いますが、利用者IDとパスワードを入れるだけで閲覧することができるようになります。立川市の子どもたちにも同様の形で提供しておりますが、立川市の図書館は既に輪島市の図書館と連携しております、輪島市児童生徒特別利用カードというものを作成しました。子どもたち1人1人にこのカードを提供し、パスワードを設定して、ログインしていただくだけで、子どもたちはこの立川市の電子図書館を見ていただくことができるようになります。

今回のこの取り組みは、おそらく東京都内ではこの立川市と輪島市の連携が初であろうと思っております。全国的には、京都市と七尾市との連携の中で、同様の電子書籍の提供を行っているということは聞いております。しかし、政令市以外の全国の自治体の中では、当市が初めて被災地支援という形でしかも子どもたちに寄り添う、そして子どもたちの学びの機会をしっかりとサポートをしていく、そういう取り組みを今回始めさせていただくことといたしました。

この件について議会からも、立川市として、被災地支援をどうするんだという、そういったご質問が多数定例会の中でも挙げられ、既にこの件については準備を進めつつ、今日の日を待つ前に議会の議員の質問には答弁もさせていただいております。

この他にも、これまで東京都庁からの要請に基づいて課税課と建築指導課の係長級2人を派遣し、業務内容としては皆さん方も既にご案内のことと思っておりますけれども、住宅被害の認定業務に受ける全壊判定リモートの業務にあたってまいりました。

また、発災直後の本市の御用始め、仕事始めの日から、立川市の公共施設に義援金箱を設置し、令和6年3月7日現在で195万7,604円の義援金を、日本赤十字社を通して被災地に送金しております。まだ、不確定でございますけれども、この後、立川市のごみ対策課の職員を派遣する可能性があるということで、現在人選についてはもう既にいつでも要請があれば派遣ができるように準備を進めている次第でございます。

私ども、立川市といたしましても、こういった震災等が発生したときに、私たちが持てる資源をいかにこの被災地の方々の復興に役立てていけるのか、また復興という観点だけではなく、より充実した生活を送っていただけるような支援の一つとして今回電子書籍という形での取り組みをさせていただいた次第でございます。

輪島市の教育長の小川様から、本日お手紙をいただきまして、私どもの取り組みについて大変恐縮ではございますけれども、感謝していただいているということで、今後こ

の事業が3月12日からスタートする中で、輪島市の本当に被災地の中で苦しんでいる子どもたちの笑顔が少しでも広がっていきけるような、そういった取り組みとして進めていければと考えております。

ぜひ、本日お越しの報道機関の皆様方におかれましては、いろいろと石川県の方ともルートがおありでしょうから、3月12日に子どもたちがどういう形でこれを利用していただけるのかという部分について、取材していただき、またそういった取材の場面を私も拝見をすることができたらなと思います。

また、第2弾第3弾といろいろと打っていきたいという思いは持っております。今日の皆様へのご報告は以上でございますが、この電子図書に関しては、市内の企業から寄付を提供してもいいですという打診はいただいております。何か形に残る形で被災地の支援に繋げていければと考えている次第でございます。

私からのご報告は以上でございます。ご質問がございましたら、お受けいたします。また細かいことにつきましては、記者会見終了後、池田図書館長の方から詳しい説明について補足していただきと思っております。以上でございます。

【東京新聞 岡本記者】

輪島市の子どもたちに本を読んでもらうようにすることの意義、本事業を行うこととなったきっかけを伺いたい。

【酒井市長】

1点目の電子図書を子どもたちへプレゼントすることへの思いでございますが、やはり報道等を見ていて特に中学生のお子さんが親御さんと離れて移動して、別の地で学業にあたっているという場面を見ると、私もまだ小学生と保育園児の父親でございますので、我が事のようにやはり心が痛みます。

送り出す側の親の思い、また子どももどういう思いをしているんだろうという思いもある中で、震災という場面に私は直接経験をしたことがない訳ですけれども、ただ被災者という、いろんなことを我慢するのが当たり前みたいな、そういった環境や日本の社会の風土があるのではないかなということ若干感じております。

そういった中で立川市として、相手様になるべく迷惑にならないように、一番迷惑にならないはお金であろうということで義援金から始めさせていただきました。また、これから復興に向けて罹災証明だとかいろんなこともこれから必要であろうと思っております。

そういった部分を含めて人的な支援ということも、ごみ対策課の職員派遣というお話もいたしましたけれども、必要であろうと思います。さらに実際に学校も再開をされているようでございますけれども、なかなか本というコンテンツについて、やはり子どもたちについては学びの機会をしっかりと確保していくことが、やはり今のこの日本中の大人たちの子どもに対する一つの責任ではないのかなという思いで今回この電子図書をプレゼントすると、閲覧をしていただくということを考えました。

きっかけについては、当然私はそれほど造詣が深いわけでもなくて、何か立川市でも実践できることはないかという、実は新年度の予算の中でも図書館を通じた子育て支援策を一つ、妊娠中や出産直後の図書館に来館することが難しい方に宅配サービスをしようという予算の提案をさせていただいております。そういった中で図書館長の池田といろいろと何か図書館を通じて立川ならではの発信の仕方、また市民への寄り添い方ということがないだろうかという話をしていました。

そのなかで、池田館長の方から輪島市では同じ電子図書館のシステムを使っています。初めはいろいろと他のこともあるかなどうかなということをお願いしていたんですが、これが一番、相手の市にとってもご迷惑や負担をかけることなく協力ができるのではないかということで、図書館が持っている可能性をさらに広げていくことに繋がるのではないかということで耳打ちをされました。それいいねと、ぜひ先方のご迷惑でないということであるならばこちらからいかがですかという働きかけをして進めていく必要があるのではないか、ということがきっかけで進めさせていただきました。

2点目のご質問につきましては、私ども立川市の図書館の方から輪島市の図書館にそういった希望があるのかどうなのかということを確認し、そして当然、先ほど最初に申し上げましたけれども、当市が購入している電子書籍については、当市の在住在勤在学までの方を対象として購入しておりますので、その書籍の著作権等の問題もございます。その版元の事業者に対して許可を得なくてはいけない中で、当市と輪島市の間で、両市で覚書などの合意書を作ってくれば被災地支援ということで事業所も特段追加の費用の発生なく、開放してもいいということをおっしゃっていただけたということで今日の運びになった次第でございます。

【TokyoMX 白井記者】

子どもたちにどのような気持ちで図書館を楽しんでほしいか。

【酒井市長】

被災地で今なお復興途上で大変つらい思いをしている子どもたちに読書を通じた笑

顔をお届けしたいそのこと一点に尽きると思います。子どもたちの笑顔があれば次への復興への力になるものと考えております。

子どもたちになぜこの事業をするかといえば、やはり被災地の中で、今なお復興の途上にある、そういった暗い気持ちの中で子どもたちに図書を通じた読書を通じた笑顔を届けていきたいと思っています。子どもたちの笑顔があふれば、暗い雰囲気も明るく変わり、そして震災の復興への活力にもつながっていくのではないかなと思っている次第でございます。

【共同通信 江森記者】

石川県内で7自治体と同じ電子図書館システムを採用しているということだが、今後支援を拡充していく予定はあるか。

【酒井市長】

現状は、版元との関係もございすし、また先方の市との関係もございすので、輪島市以外には現状では考えておりません。

石川県内で7つの自治体で立川市と同じシステムを利用されているということですが、この能登半島のいわば半島の部分に位置している自治体で、立川市と同じシステムを使っているのは輪島市のみということでございす。このため、やはり災害の被災の状況等の現状を鑑みると、輪島市が一番必要性を感じているのではないか、という思いで輪島市と覚書を結ばせていただきました。

【時事通信 又坂記者】

電子図書館の利用カードは、輪島市の子どもたちにも届いているか。

【池田図書館長】

利用カードは、輪島市の図書館の方で作成いたしまして、図書館から各学校に既に配布済みです。

【時事通信 又坂記者】

電子図書館は同時に複数の人が読めるのか。

【酒井市長】

はい。読み放題パックというものがございまして、これは利用者数に制限がなく利用ができるということでございます。電子書籍の中には回数制限があったり、あるいは買い取りで自由に、など規制がかかっているものがあります。そうするとやはり立川市民にも不都合が生じるということで、この児童書の読み放題パックというところが一つの肝でございまして、これであればみんなでアクセスをしても読み放題ですので、立川の子ども利用を制約することがないし、輪島市の小・中学生も、極端な話1,240人を対象にしておりますけど、みんなが同時にアクセスしても見られると。そういうことはなかなかないでしょうけれども、そういった仕立てになっているということです。

【時事通信 又坂記者】

児童書読み放題パックが11パックというのはセットになっているということか。

【酒井市長】

1パックに児童書がセットになっているものが今現在では立川市では11パック585点。「点」となっていますけれども普通の書籍で言えば585冊分が今あるということで、先ほどもお話し申し上げましたけれども今後補正予算の予定でございますが、今後約120万円の予算を計上して議会にお諮りし、予算を認めていただけると追加で5パック197点が追加になります。

全てで言うと700冊以上閲覧していただけるということになる予定でございます。

今、現在3月時点で、輪島市と立川の市民も同じですけれども、輪島市の小・中学生および教職員の方々が見られるのは11パック585点です。今後、今議会中に補正予算を追加で議会にお願いいたしまして、それが約120万円。まだちょっと数字を精査しているので「約」という形で、申し訳ございませんけれども、予算をお認めいただくと、今年度中に追加で5パック197点を買って足して、規模を膨らませて、より多くのコンテンツを輪島市の子どもたちに見ていただけるように、立川市民にも見えるわけですが、見ていただけるようにしていこうということでございます。約200点増えるわけですので782点(785点)です。

【時事通信 又坂記者】

事業会社が輪島市で利用できるようにすることを認めたということだが、補正予算の

約 120 万円の内容を確認したい。

【酒井市長】

立川市の図書館として電子図書として新たに追加購入をするということでございます。これは立川市の書籍として充実をさせて、輪島の皆さんへの震災の復興支援・再生支援という形で立川市として追加で購入させていただくということで、事業会社に対してはなんら追加の負担等々は生じることはないという図書館長からも聞いております。そこは事業会社の心意気でご協力をいただいているということであろうと思います。

【時事通信 又坂記者】

図書の中に、参考書も含まれているか。

【池田図書館長】

「調べ学習」ということで、図鑑系とかイラストとか写真入りのものとか、そうしたものが充実したパックがありまして、そういうのも適度には買っておりますので、普通に読み物と、あとは「調べ学習」という学習に適したような本もあわせて購入しております。辞典はないです。

(終了)